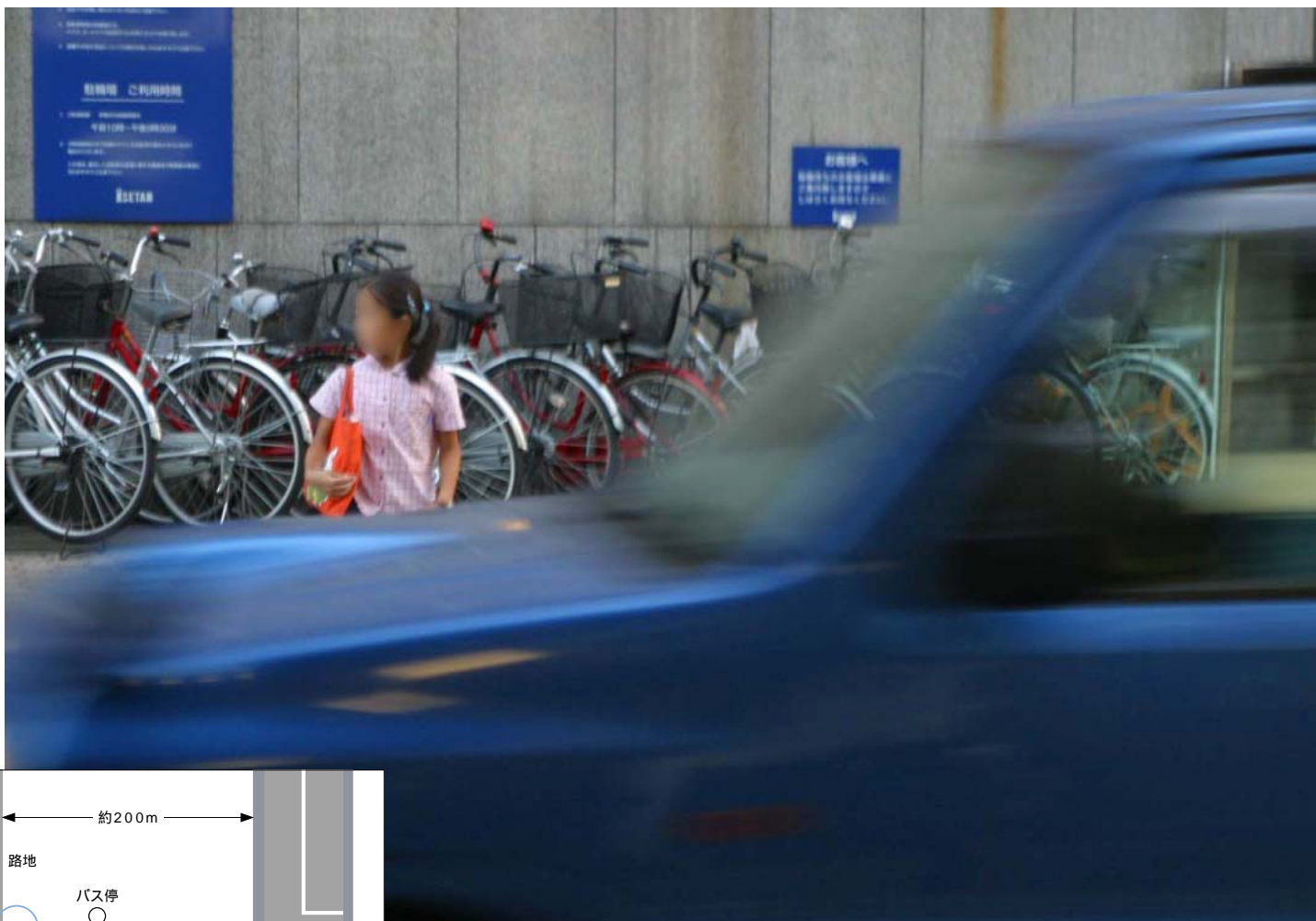


# DOCUMENT series 164 Eye

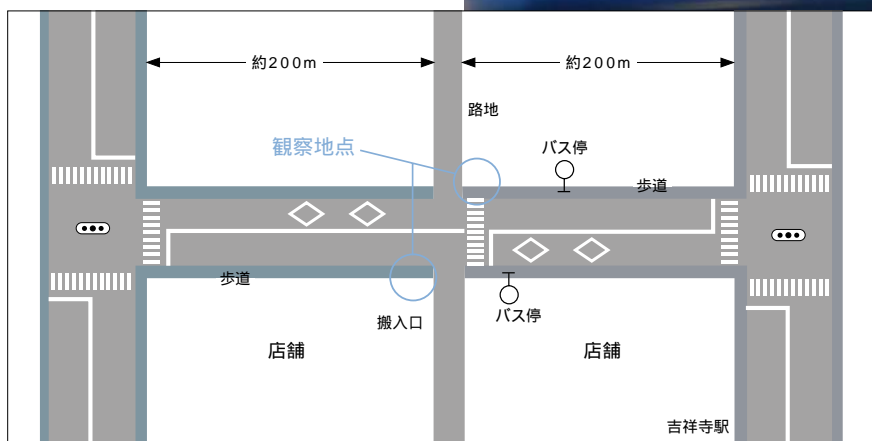
混合交通を観察する

対人車両の交通事故の多くは、道路横断中の事故である。横断歩道は歩行者が安全に道路を横断するために設けられているが、横断歩道を渡ろうとした際にクルマが停止してくれなかったり、あるいは横断中に左折車に巻き込まれそうになったりした経験を持つ人は多いのではないだろうか。  
歩行者が信号機のない横断歩道を渡る

## WHY 横断歩道を渡る歩行者に 近づくクルマの動きは?



子どもが左右確認をして渡ろうとしているのにドライバーは止まろうとしない



うとした時、そこに近づくクルマや二輪車が歩行者保護のために一時停止をして歩行者に道を譲っているかどうか、観察してみた。

# 信号機のない横断歩道で歩行者保護を行なうクルマを観察する 道路を横断しようとする歩行者に接近した 車両65台中、一時停止させたのは54台

観察場所 / 東京都武蔵野市吉祥寺1丁目11付近  
観察日 / 9月17日(水曜日)  
天候 / 晴れ  
観察時間 / 17:00 ~ 18:00  
観察者 / 4名



横断しようとする歩行者の前を通り過ぎるクルマ

## WATCHING

### 子どもが横断しようとしているのに止まらないクルマ

観察場所は東京・武蔵野市吉祥寺にある大型商業施設に沿った見通しの良い直線道路。観察場所の前後には、それぞれ200mほど離れた地点に信号機のある横断歩道がある。付近には路線バスの停留所があり、この信号機のない横断歩道を渡ってバス停に向かう歩行者もいた。1時間にこの道路を通過した車両の総台数は376台(四輪320台・二輪56台)。うち信号機のない横断歩道を歩行者が横断しようとしたときに接近した車両は65台(四輪59台・二輪6台)だった。  
このうち、横断中もしくは横断しようとする歩行者を確認して停止線で停止した車両は11台(四輪10台・二輪1台)。残りの54台(四輪49台・二輪5台)は徐行もせずに通過していった。

信号機のない横断歩道で歩行者保護を行うクルマ  
歩行者が横断しようとしていた時に接近した車両(四輪59台・二輪6台)

		四輪	二輪	小計
歩行者に接近した車両	そのまま通過した	49	5	54
	一時停止した	10	1	11
小計		59	6	65

通過総台数376台(四輪320台・二輪56台)

クルマが近づいてくると、歩行者が横断を途中でやめたり、道路の中央で立ち止まって、クルマに道を譲る例が目立った。小学校低学年と見られる女の子が一人で、この横断歩道を渡ろうと、大きな動作で左右の確認をしていたが、1台も止まるクルマはいなかった。一方で、接近するクルマに対して手を挙げた中高年の女性がいた。クルマはその女性に気づき、横断歩道手前で停止。その女性はゆつくりと道路を横断していった。  
携帯電話を使用しながら渡る若者も見られた。携帯電話を使用していると横断するのか、立ち止まって話しているのか判断がつきにくい印象を与えていた。高齢者の横断は歩行速度がゆっくりであるとともに、横断中に姿勢が前屈みになってしまい、左右から近づくクルマに気づいていないように見えた。  
一時停止して歩行者保護を行なったクルマ

## PROPOSE

### 横断しようとする歩行者を 発見したら一時停止

ドライバーは横断している歩行者や横断しようとしている歩行者がいる場合は、徐行や一時停止をおこなって歩行者に道を譲らなければならない。しかし、観察の結果から見ると、この基本的なルールとマナーを遵守しているドライバーやライダーは少ない。  
今回の観察でも、歩行者に道を譲ったクルマの1台が初心者であったように、運転免許を取得する際には、歩行者保護の意識づけが徹底されているはずである。それが運転経験を積んでいくうちに歩行者保護の意識が希薄になっているのではないだろうか。

ドライバーやライダーは初心を思い出し、歩行者を思いやる気持ちを持ち、信号機のない横断歩道では歩行者に道を譲ってほしい。



横断歩道の手前で一時停止して、歩行者に道を譲るクルマ